



米子市埋蔵文化財センターたより

第24号

2017年3月



中世の敷石遺構と柱列の謎？

- 日南町新屋川添遺跡 -



川添遺跡の敷石遺構 1



川添遺跡の敷石遺構 2

(一財) 米子市文化財団埋蔵文化財調査室が実施していた新屋小タイ田遺跡と新屋川添遺跡の調査は、平成28年12月12日に現地発掘を終了しました。調査後半に実施した新屋川添遺跡からは、中世の青磁や白磁などの陶磁器や瓦質土器などの遺物と共に、掘立柱建物跡1棟と多数の柱穴、石敷遺構2基が発見されました。石敷遺構1は、30cm大の自然石の平石14個を、縦150cm、横90cmの長方形の範囲に平に並べたものです。石敷遺構2は20～40cm大の自然石の平らな面をそろえて縦180cm、横170cmの方形の範囲に平に並べたものです。

これらの石敷遺構は、調査区の南側に認められたタタキ状の造成面中にあり、建物の入口踏石か建物の基礎と考えられますが、造成面に建物の痕跡が検出されなかったため、その性格が良く解りません。柱列は一列に並ぶ4本の柱穴で、径20cm前後で長さ20cm～85cmの柱根が検出されました。そのうちの柱穴P32には、径20cm、長さ85cmの柱根が残っていました。これらの柱穴は柱間の間隔が不規則であることから建物の柱穴ではなく、柵などの柱穴ではないかと考えられますが性格が不明です。周辺遺構との関係の再検討が必要な遺構です。(小原)



P32の柱痕

発掘調査情報

―石井要害跡の試掘調査―

米子市教育委員会では、平成 28 年 12 月に、米子市石井にある石井要害跡の試掘調査を実施しました。石井要害跡は、標高 29m の小高い独立丘陵に築かれた中世の城館跡です。石井要害は住宅団地の造成により大部分が削られています。もとは三段の平場状の郭と堀を巡らせていた城館です。頂上部には八幡神社が祀られています。頂上部の試掘では平坦部から溝状遺構 1 条と土坑 1 基を検出し、南東側と南西側の斜面では郭状の平坦面を確認しました。南西側の郭状の平坦面は、突き固められてしっかりとした地業造成が行われていました。また、試掘トレンチから陶磁器などの若干の遺物が検出されました。



頂上部の平坦地の試掘トレンチ

試掘調査は、遺構の有無や状況を確認するための部分的な調査であるため、城跡の

全容はよくわかりませんが、来年度には急傾斜地保全工事に先立ち、削平する部分の発掘調査が実施される予定ですので、城の様子がもっと良く分かるのではと期待しています。(文化課 高橋)

整理室たより

山陰歴史館収蔵品の整理

整理室では、平成 28 年度に実施した日南町小タイ田・川添遺跡の土器洗浄や記名等の基礎整理を行う傍ら、当センターの特別収蔵庫で保管してある山陰歴史館収蔵の鏡類の整理を行っています。

鏡類は日本の古墳時代の古鏡や、和鏡、柄鏡、中国・朝鮮の古鏡など多数です。

これらの鏡は足立正が山陰徴古館と山陰歴史館の館長時代に収集したものです。

歴史館での台帳登録はされていましたが、写真や詳細なデータ記録が作成されていないため、拓本や写真撮影を行い整理作業に取り組んでいます。(佐伯)

―鏡資料の整理―



整理中の山陰歴史館収蔵の鏡

井手跨遺跡は、米子市淀江町福岡字井手跨他の水田下に所在する遺跡で、1991年から1992年に国道9号米子道路建設に伴い鳥取県教育文化財団によって3万㎡が発掘調査されました。遺跡は福岡遺跡に隣接し、淀江平野のデルタ地帯に立地しています。

井手跨遺跡は縄文時代から中世にかけての遺跡で、縄文時代後、晩期の層では自然河川から朱漆塗りの櫛、耳飾、椀などの漆器、丸木舟、櫂などが出土しました。弥生時代後期から古墳時代前期の層では、自然河川と杭列が発見され、多数の土器のほか、ナスビ形着柄鋤、又鋤、鋤、木庖丁等の木製農耕具が多数出土しました。

淀江平野のデルタ地帯に古代の水田が拓かれていたことを示す遺跡として注目されます。

(小原)



朱漆塗りの櫛



朱漆塗りの耳飾

(井手跨遺跡 1993 巻頭写真より)

コラム

戦国時代を掘る①

―戸上城跡―

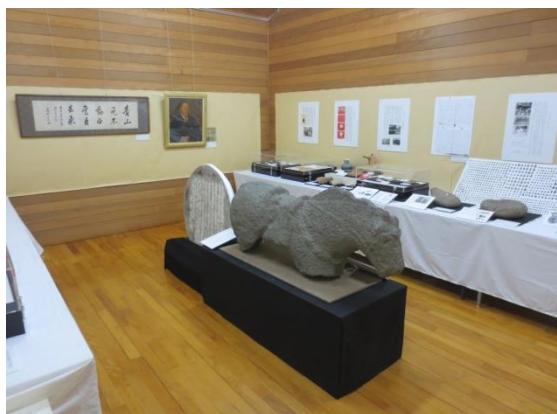
戸上城跡は、米子市観音寺に所在する中世の城跡です。東宗像山塊の北側に派生する標高 63 m の尾根筋に造られ、尾根上に郭状の平坦地が数段存在しています。城の記録は「陰徳太平記」や「伯耆誌」に少しだけ書かれており、城主に久代氏や古曳氏の名が見えます。2013年に米子市の水道貯水槽の建設に伴って、戸上城の南の尾根上にある観音寺狼谷山が発掘調査されました。遺跡からは数多くの郭状平地や掘立柱建物跡、柱穴、土坑などが発見されました。青磁や焼締陶器、土師皿、つぶて石などの遺物が検出され、14世紀から16世紀にかけての中世城跡であることが確認されました。戸上山城跡と尾根続きの位置関係から、戸上山城の南側の一画であると考えられます。法勝寺平野、箕蚊屋平野を望み、法勝川の水運を抑えることが出来る中世城館跡として注目されます。(小原)



観音寺狼谷山と戸上山城跡

センター・資料館日誌

- 12月8日(木) 埋蔵文化財センター展示室の追加展示を行った。
- 12月9日(金) 埋蔵文化財センターの玄関ケースの展示替えを行った。
- 12月22日(木) 出雲市弥生の森博物館花谷氏資料調査、借用で来館された。
- 1月19日(木) 木更津市郷土博物館学芸員が上福万出土の土器返却で来館。妻木晩田史跡公園文化財主事が洞ノ原地区資料調査で来館。
- 1月22日(日) 永江自治連合会の青木遺跡勉強会へ出前講師を派遣した。
- 1月26日(木) 出雲市弥生森博物館学芸員が上淀廃寺瓦の返却で来館。
- 1月28日(土) 出雲市弥生の森博物館花谷氏他が米子城瓦調査で来館された。
- 2月11日(土) 山陰中世土器検討会が埋文センターで開催された。
- 2月18日(土) 上淀白鳳の丘展示館・山陰歴史館・福市考古資料館の三館連携展示「山陰の考古学のあけぼの」を上淀白鳳の丘展示館で開催。



- 2月23日(木) 日本大学山本教授が高山古墳の獅嚙文帯金具の調査で来館。
- 2月25日(土) 山陰中近世瓦研究会が埋文センターで開催された。



山陰中近世瓦研究会

- 3月9日(木) 愛媛大学幸泉教授が縄文土器の調査で来館された。
- 3月13日(月) 山陰ビデオシステム制作の「日野川物語」の取材を日南町小タイ田遺跡の現地で受けた。
- 3月23日(木) 米子市歴史館運営委員会が開催され28年度事業報告を行った。
- 3月30日(木) 出雲市弥生の森博物館芸員が石州府古墳群出土の土器返却で来館された。

編集後記

今年の冬は2月にドカ雪が降り、鳥取県内では交通がマヒするなどして大変でした。

福市遺跡公園の老齢の桜の木も積雪で枝が何本も折れる被害があり、倒れる心配のある木が何本も伐採されました。今年も満開の桜の下で花見が出来ればと願っているところですが、開花を目前にして桜の花がどれくらい咲くのか心配しています。

発行日 平成29年3月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp